

鍛え上げた心と体で世界を 目指しボールを追い続ける

「自分の技術を磨く努力を重ねることが、チーム全体の力につながると思います」と語るのは、秀岳館高サッカー部で活躍し、副キャプテンとしてチームをまとめた江藤栄起選手（下横田区・3年）。

江藤選手は、昨年11月に第93回全国高校サッカー選手権県大会決勝戦で勝利し、12月に千葉県で開催された全国大会に県代表として出場。「各地から精鋭が集まる全国大会は、試合展開も難しかったで



江藤 栄起さん
Eto Hideki

えとう ひでき / 秀岳館高3年。昨年12月に行われた全国高校サッカー選手権に県代表として出場。今春国士館大学に進学し、更なる活躍を期待。

〔下横田区〕

す。普段の大会に比べて観客の数も多く、とても緊張しました」と振り返る。

小学4年生のとき、父の知り合いに誘われサッカーを始めた江藤選手。持ち前の体格の良さを生かし、部活とクラブチームを掛け持ちして、毎日練習に励んだ。中学3年生のときに同高の部活体験で、先輩選手たちのマナーや面倒見の良さなどチームの雰囲気

に引かれ進学を決意。200人を超える部員の中で、「高校1年のときは、自分のプレイに自信がなかったのでみんなに追い付きたいという気持ちで自主練に力を入れました」と江藤選手。頭角を現わしトップチームに選ばれ、2年の新人戦以降は先発メンバーとして活躍し続けた。

「ディフェンダーは、フィールド全体を見渡し判断を下すことが大切。役割分担を自分の仕事をしっかりこなすことが、チームプレイにつながります」と江藤選手。「副キャプテンを務めていたときも、キャプテンたちとチームのことを考えて指導方法などを遅くまで話し合いました」と強いチームづくりの道のりで全国への切符をつかんだ。

強豪・国士館大に進路を決め、「大学でもサッカーに打ち込む」と意気込みは熱い。「夢は、日本を代表する選手になって日の丸を背負い世界と戦うこと。そして、お世話になった人や両親に恩返しをしたいです」と、ボールと共に明るい未来を追い続ける。